

なし

—— 発病・加害時期  
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地					開								
					花					収	穫		
黒星病	黒星病				—	—	—	—	—	—	—	—	—
赤星病	赤星病				—	—	—	—	—	—	—	—	—
輪紋病	輪紋病				—	—	—	—	—	—	—	—	—
シクイムシ	シクイムシ					—	—	—	—	—	—	—	—
ハマキムシ	ハマキムシ					—	—	—	—	—	—	—	—
アブラムシ	アブラムシ					—	—	—	—	—	—	—	—
ハダニ	ハダニ					—	—	—	—	—	—	—	—
ニセナシバダニ	ニセナシバダニ					—	—	—	—	—	—	—	—
カイガラムシ	カイガラムシ					—	—	—	—	—	—	—	—
カメムシ	カメムシ					—	—	—	—	—	—	—	—

黒星病

留意事項

- 1 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。
- 2 QoI剤〔11〕、SDHI剤〔7〕は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 被害葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発芽前に下記の薬剤を散布する。
  - ・石灰硫黄合剤 〔 〕【7倍 発芽前／—】
- 4 4月上旬から下旬に下記の薬剤を散布する。
  - ・デランフロアブル 劇 M9【1,000倍 60日／4回】
  - ・チオノックフロアブル M3【500倍 30日／5回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ファンタジスタ顆粒水和剤 〔11〕【3,000～4,000倍 前日／3回】
  - ・スコア顆粒水和剤 〔3〕【2,000～4,000倍 14日／3回】
  - ・ナリアWDG 〔11〕〔7〕【2,000倍 前日／3回】
  - ・ベンレート水和剤 〔1〕【2,000～3,000倍 前日／4回】
  - ・パレード15フロアブル 〔7〕【2,000～3,000倍 前日／2回】
- 6 収穫後に下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ICボルドー48Q](#) M 1 【30倍 収穫後～開花前／—】

## 赤星病

### 留意事項

- 1 ビヤクシン類が周囲に多いと発病が多い。
- 2 SDHI剤 (7) は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

### 防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 感染期（4月上旬～下旬）に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [デランフロアブル](#) 劇 M 9 【1,000倍 60日／4回】
  - ・ [チオノックフロアブル](#) M 3 【500倍 30日／5回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【2,000～4,000倍 前日／3回】
  - ・ [アンビルフロアブル](#) 3 【1,000～2,000倍 7日／3回】
  - ・ [フルーツセイバー](#) 7 【1,500～3,000倍 前日／3回】
  - ・ [パレード15フロアブル](#) 7 【2,000～3,000倍 前日／2回】

## 輪紋病

### 留意事項

- 1 軟腐症状を伴う輪紋病斑を生じる。枝幹にはいぼを形成する。
- 2 落弁後から7月にかけて降雨が多いと多発する。
- 3 QoI剤 (1 1)、SDHI剤 (7) は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 せん定時にいぼ多発枝をせん除し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [デランフロアブル](#) 劇 M 9 【1,000倍 60日／4回】
  - ・ [ベルコート水和剤](#) M 7 【1,000～1,500倍 14日／5回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ベンレート水和剤](#) 1 【2,000～3,000倍 前日／4回】
  - ・ [オンリーワンフロアブル](#) 3 【2,000倍 前日／3回】
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 1 1 【3,000～4,000倍 前日／3回】
  - ・ [パレード15フロアブル](#) 7 【2,000～3,000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## シンクイムシ類

### 留意事項

- 1 果実に食入するシンクイムシ類にはナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、ナシマダラメイガなどがある。
- 2 ピレスロイド剤(3 A)を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

### 防除方法

- 1 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2,000～4,000倍 前日／3回】
  - ・ [ダイアジノン水和剤34](#) 劇 1 B 【日本なし 1,000倍 14日／6回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2,000～3,000倍 前日／2回】
  - ・ [サムコルフロアブル10](#) 2 8 【2,500～5,000倍 前日／3回】
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2,000倍 前日／3回】

## ハマキムシ類

### 留意事項

- 1 幼虫が果実の表面をなめるように食害したり、葉2～3枚を重ね合わせるほか、新梢の先端を巻いたり、綴る等の被害を出す。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [エクシレルSE](#) 2 8 【2,500～5,000倍 前日／3回】
  - ・ [ディアナWDG](#) 5 【5,000～10,000倍 前日／2回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2,000倍 前日／2回】
  - ・ [ダイアジノン水和剤34](#) 劇 1 B 【日本なし 1,000～1,500倍 14日／6回】
  - ・ [フェニックスフロアブル](#) 2 8 【4,000～6,000倍 前日／2回】

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 発芽展葉期の防除に重点を置く。
- 2 ピレスロイド剤(3 A)を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用时には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2,000～3,000倍 前日／2回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【4,000倍 前日／3回】
- ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C 【2,000～4,000倍 前日／3回】
- ・ [ウララDF](#) 2 9 【2,000～4,000倍 14日／2回】

## ハダニ類

### 留意事項

- 1 葉がかすり状になってからでは手遅れであるため、早期発見に努める。
- 2 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の間隔をおいて散布する。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 休眠期(12月～3月上旬)に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [機械油乳剤95](#) UNM 【落葉果樹（なし、りんご、かき、もも） ハダニ類及びその越冬卵 16～24倍 ー／ー】
- 2 発芽前に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7～40倍 発芽前／ー】
- 3 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ダニコングフロアブル](#) 2 5 B 【2,000倍 前日／1回】
  - ・ [コロマイト乳剤](#) 6 【1,000～1,500倍 前日／1回】
  - ・ [スターマイトフロアブル](#) 2 5 A 【2,000倍 前日／1回】
  - ・ [マイトコーネフロアブル](#) 2 0 D 【1,000～1,500倍 前日／1回】
  - ・ [モベントフロアブル](#) 2 3 【2,000倍 14日／3回】

## ニセナシサビダニ

### 防除方法

- 1 せん定枝は4月までにほ場外に持ち出し処分する。
- 2 休眠期(12月～3月上旬)に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [機械油乳剤95](#) UNM 【落葉果樹（なし、りんご、かき、もも） サビダニ 16～24倍 ー／ー】
- 3 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コロマイト乳剤](#) 6 【1,000倍 前日／1回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000～3,000倍 前日／3回】
  - ・ [カネマイトフロアブル](#) 2 0 B 【1,000倍 前日／1回】
  - ・ [モベントフロアブル](#) 2 3 【2,000倍 14日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## カイガラムシ類

### 留意事項

- 1 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の間隔をおいて散布する。
- 2 アプロード水和剤は若齢幼虫発生期に散布する。
- 3 なるべく天敵への影響の少ない薬剤（アプロード水和剤）を散布する。

### 防除方法

- 1 休眠期（12月～3月上旬）に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [機械油乳剤95](#) UNM
    - 【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) カイガラムシ 16～24倍 —／—】
- 2 発芽前に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7～10倍 発芽前／—】
- 3 第1世代幼虫発生期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アプロード水和剤](#) 16 【カイガラムシ類幼虫 1,000倍 30日／2回】
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4A 【2,000～4,000倍 前日／3回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4C 【1,000～2,000倍 前日／3回】

## カメムシ類

### 留意事項

- 1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて早めに防除する。
- 2 ピレスロイド剤 (3A) を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

### 防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4A 【2,000倍 前日／3回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3A 【2,000倍 前日／2回】
  - ・ [ダントツ水溶剤](#) 4A 【2,000～4,000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。